

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成29年度採択分）
「仏語機関誌刊行およびオープンアクセス推進を中心とする国際情報発信強化」
（課題番号：17HP2003）

学術団体名：日本フランス語フランス文学会

学術刊行物の名称：LITTERA (Revue de langue et littérature françaises)

事業期間：平成29(2017)年度～令和3(2021)年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

- ① 完全フランス語の機関誌 *LITTERA* 刊行による国際情報発信強化。
- ② 海外編集顧問の増員を契機とする学会の国際化。
- ③ 学会誌の電子ジャーナル化、オープンアクセス可の推進。
- ④ 国際シンポジウムの開催等を通じた海外の学会・学術誌との連携促進。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

- ① 新機関誌 *LITTERA* の投稿者数増大を図る。また、国内外の著名研究者の寄稿論文を掲載し、国際的認知度の向上を目指す。書評や研究動向も掲載し、総合的な学術雑誌として整備する。
- ② 海外編集顧問を5年間で15名に拡充し、国際学術誌としての評価定着を図る。論文の査読においては3人の査読者のうち1人以上は必ず外国人に依頼し、外国人比率35%以上を目標とする。
- ③ 既存機関誌・新機関誌を含む学会の全刊行物について、電子ジャーナル化、オープンアクセス化を実現し、冊子体刊行と同時に電子化・即時公開する。
- ④ 年1件の国際シンポジウムを催し、海外の先導的研究者を招いて交流を図る。また、フランスやアジアの関連学会と連絡を密にし、学術出版と知的交流のあらたな局面に参画する。

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

- ① *LITTERA* への投稿論文数は、第3号2本（内掲載2本）、第4号3本（内1本）、第5号3本（内1本）である。今後、学内外への周知を一層進めることで、投稿数増大を図る。
- ② 海外編集顧問の数は予定を早めて計15名に委嘱するに至った。投稿論文の審査には必ず1名以上の外国人に依頼し、平均外国人比率35%以上の目標を達成している。
- ③ *LITTERA* のオープンアクセス化を実現。また既存機関誌『フランス語フランス文学研究』および6支部の機関誌について、オープンアクセス化を達成した。
- ④ 国際シンポジウムを継続的に年1回開催し、成果は *LITTERA* に公表している。その規模、内容ともに着実に充実し、国際的にも高く評価されるものとなっている。

・今後の計画

- ① 投稿数増加のために海外編集顧問への協力を求めるほか、フランスの情報サイトなどにおいて投稿募集を行う。第6号では投稿6本以上（海外からの投稿2本以上）、第7号では10本以上（同4本以上）を目標とする。
- ② 引き続き年1回、国際シンポジウムを開催する。5年目には大規模なシンポジウムを開催し、5年間の取り組みの総括とする。
- ③ フランスの学術誌との連携、学会員との交流をさらに促進する。
- ④ 韓国、中国（香港、台湾を含む）のフランス語フランス文学会との連携をすすめてゆく。